

施策評価シート《マネジメントシート》

施策名	道路の整備			
施策の体系	基本目標	ひとが賑わうまち	施策の担当課名	土木課
	基本施策	インフラ整備プロジェクト	関係課名	都市政策課
	施策コード	A-1-5		

① 施策の現状と課題	<p>本市には国道が4路線あり、南北方向に国道10号・市街地には国道496号・稚田道路の3路線が北九州と大分を結び、国道10号を起点として東西には国道201号が筑豊地域・福岡市へとつながっています。その他、主要地方道5路線、一般県道11路線、市道については、2,164路線の568.8km（平成26年度末）となっています。</p> <p>国道については、国道10号の4車線化が完了し、渋滞の緩和が図られました。また平成25年度には、国道201号の交通の分散や本市の東西の交通網の充実に向けて国道201号バイパスが整備されました。</p> <p>また、東九州自動車道は東九州地域の発展に欠かせない高速自動車道であり、本市には、吉国地区に行橋インターチェンジが整備され、中心市街地の拡大に対応し、みやこ町・田川方面への地域連携に重要な役割を担っている幹線道路、県道行橋添田線へ連結する今川スマートインターチェンジの整備も行われました。</p> <p>地元では、国・県道を含むアクセス道路の完成への期待が大きく、引き続き早期完成に向けた取組みを行う必要があります。</p> <p>都市計画道路は、25路線49.5kmを都市計画決定しており、整備率（平成25年度末）は22.1%となっています。東九州自動車道、北九州空港に対応した、都市計画道路行事西泉線の延伸整備が行われ、新たな広域交通ネットワークの整備や工業団地、自然公園などへのアクセス道路の整備も求められています。</p> <p>市道については、市民にとって最も密着した生活道路であり、道路新設・改良・維持修繕など計画的な道路整備を推進していますが、路線延長の約34%が未改良の狭隘な道路であり、約13%が未舗装となっています。</p> <p>また歩行者の安全確保と円滑な交通を図るため、道路の整備はもとより、歩道・自転車道の整備やバリアフリー化などの整備が求められており、安全で安心な道路網の整備が必要となっています。</p>
② 施策の基本方針	<p>北九州空港及び東九州自動車道に対応する、広域交通ネットワークの計画的な整備を国・県と協力しつつ促進します。都市計画道路・市道をそれぞれの道路の持つ多様な役割を認識し、国・県と連携し、市民の意向を踏まえながら、京築地域の中心市にふさわしい道路交通網の整備と、安全で利便性の高い道路形成を推進します。</p>

③ 施策の内容 (主要施策)	<p>主要施策名(1) 広域幹線道路に対応した道路ネットワーク整備の促進</p> <p>平成25年度に供用した東九州自動車道（苅田北九州空港インターチェンジ～行橋インターチェンジ）に連結する、国道201号バイパスや県道天生田・吉国線の整備も進んでいます。</p> <p>さらに、都市計画道路行事西泉線の延伸整備が完了し、市街地周辺道路のネットワークの整備を行います。</p>
	<p>主要施策名(2) 人・物の流動性を高める道路整備</p> <p>自然公園や工業団地等への交通アクセスの向上を図るため、県道門司行橋線の整備計画、及びそれに連結する市道の整備を推進し、通勤・観光等の人の移動のほか、物流にも貢献でき、利便性が図られるよう計画的に整備します。</p>
	<p>主要施策名(3) 暮らしを支える道路整備</p> <p>それぞれの道路の役割を認識し、市民の要望を把握し、維持管理や計画的な整備を行い、緊急車両の通行・通勤通学の道路・物資の輸送等、“命の道”として、市民の暮らしを支える道路整備を計画的に推進します。</p>
	<p>主要施策名(4) 歩行者の安全安心の交通ネットワークの形成</p> <p>地域住民の安全安心を念頭に、生活に密着した道路の整備は、交通状況を勘案し、歩車道の分離や歩道幅員の確保並びにバリアフリー化を図ります。また、道路の危険箇所や交通状況に対応した交通安全施設の設置を計画的に実施し、歩行者の安全対策を推進します。</p>

④ 目標指標	指標名(単位)	過年度実績				評価年度	目標値		達成度の説明（H26年度）
		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	
目標指標	東九州自動車道の整備進捗率（苅田北九州空港IC～豊津IC）（%）	0.0	25.0	53.3	84.0	100.0		100.0	H25年度は行橋ICまで完了、H26年度にみやこ豊津ICまで整備完了
	国道201号バイパスの整備進捗率（%）	0.0	65.0	83.0	98.0	100.0		100.0	H26年度に整備完了
	国道・県道の整備・進捗に関する市民満足度（%）	30.4	-	-	-			40.0	評価年度までにアンケートを実施していない
	市道の整備・利用のしやすさに関する市民満足度（%）	23.9	-	-	-			35.0	評価年度までにアンケートを実施していない
	安全で安心して歩行できる歩道に関する市民満足度（%）	21.0	-	-	-			30.0	評価年度までにアンケートを実施していない
	今川スマートインターチェンジの整備率（%）	0.0	0.0	0.0	13.0	100.0		100.0	H26年度には完成
	バスストップの整備率（%）	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		100.0	H26年度に完成

⑤ 施策構成 事務事業	事務事業名	事務事業の内容	事業費（人件費込、単位：千円）			優先順位
			H25年度実績値	H26年度実績値	H27年度見込額	
1	市道管理・補修事業	現場調査確認、補修依頼及び工事の設計から支払いまでの各種業務	44,994	52,108	55,974	1
2	道路整備事業（一般単独）	事業に伴う委託・工事の設計から支払いまでの各種業務及び用地補償契約業務	100,185	101,130	77,122	10
3	交通安全施設整備事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務	21,806	22,020	21,600	9
4	社会資本整備総合交付金事業	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	167,710	179,791	208,559	7
5	防衛施設周辺民生安定施設整備事業（城尾・大無田線）	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	177,565	0	0	-
6	特定防衛施設周辺整備事業（東徳永2号外5路線）	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	85,231	94,289	89,138	14
7	再編交付金事業（前田川、道場寺袋迫線、長野間川、山中畠田線）	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	132,641	127,698	130,604	13
8	橋りょう整備事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務及び長寿命化計画作成業務	11,859	4,870	4,940	12
9	河川・下排水路整備事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務	19,249	14,074	16,646	11
10	災害復旧事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務	769	4,217	4,147	6
11	道路確認・境界立会事業	市道及び規格等の確認依頼に対する業務並びに官民境界立会・確定業務	2,590	840	770	4
12	占用・通行許可事業	管理用地に対する占用申請及び市道通行許可申請に対する処理業務	2,030	770	770	8
13	法定外公共物管理事業	里道・水路等の法定外公共物に関して財産管理（境界立会、占用許可、払下げ等）を行う。	0	0	12,829	5
14	開発協議事業	開発における道路等の協議・指導業務	700	1,050	1,470	16
15	街路管理・補修事業	現場調査確認、補修依頼及び工事の設計から支払いまでの各種業務	0	0	6,986	15
16	高速道・国県道対策事業	高速道・国県道整備に伴う負担金及び事業促進を図るための協議調整等各種業務	194,935	61,070	7,100	2
17	道路整備事業（関連道路）	高速道・国県道整備に伴い影響を受ける市道等整備に関する調整及び各種業務	83,774	28,256	5,653	3

⑥ 施策全体の今後の方針と展望 (主要部長の意見)	<p>地域住民にとって安全で安心な道路網の整備が必要となっていることから、年次計画に則り、計画的に事業を進めるとともに、早急に整備が必要な箇所、あるいは危険箇所等については早急に事業完了を図っていく。</p>
---------------------------------	--

⑦ 総合計画審議会からの意見及び指摘事項等	<p>昨年度までの国道201号バイパスや東九州自動車道の市内区間全線開通等によって、行橋市を取り巻く交通環境は大きく変化した。バイパスの整備等で市内における交通渋滞の緩和が図られていることを高く評価する。しかし、安川通りをはじめ依然として交通量が多く渋滞している箇所も見受けられる。国、県と連携して引き続き交通環境の向上に努めてもらいたい。</p> <p>市民にとって一番身近な生活道路である市道の整備事業がやや無秩序的に行われている気配がある。計画的な事業推進の必要があるだろう。また、交通量が多いにもかかわらず歩道が未整備である道路の整備について、重点的に進めてもらいたい。</p>
--------------------------	---

⑧ 施策に対する市の最終方針	<p>東九州自動車道や国道201号バイパスの開通は、市内の交通状況を変化させ、慢性的な渋滞の緩和が図られた。しかし、依然渋滞の発生している箇所もあるため、解消に向けた取り組みに関して国・県への要望活動を強化するとともに、引き続き連携し対応していききたい。</p> <p>市道の整備は、交通量が多く危険な場所の改良、特に通学路の歩道整備を重要視して取り組む方針である。また、生活道路については、舗装の傷みが進んでいるため、点検や市民からの情報を基に優先順位をつけて効果的な整備に取り組んでいく方針である。</p>
-------------------	---